

【担当者名】 塚本 容子 [yokot88@hoku-iryo-u.ac.jp]
 山田 拓[yamada_k@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

エビデンスに基づいた実践とは何か、感染症の持つ患者の人権と倫理、公衆衛生学の考え方を押さえる。感染症を持つ患者（HBV・HCV・HIV・結核など）を発達段階別にとらえ、アセスメントから治療マネジメント、そして看護援助について検討する。易感染状態にある患者・家族（透析・移植・がん化学療法等の治療を受けている）のアセスメントから治療マネジメント、看護援助を検討する。また、在宅療養患者の感染予防・管理のための看護介入及び評価について学習する

【学修目標】

- 1) エビデンスに基づいた実践について理解し、その上で、感染症看護の現状と高度実践看護師の役割について説明できる
- 2) 感染症を持つ患者の人権と権利について、感染症法の変遷を押さえながら、理解を深めることができる
- 3) 感染看護の基盤となる理論（スティグマ理論・交流衛生学の考え方など）を理解し、学生自身の臨床経験を振り返るために、理論を適用できる
- 4) 感染症を持つ患者と家族を発達段階別に捉え、身体・心理・社会的な包括的側面からアセスメントするための知識を学習し、看護介入について検討することができる
- 5) 易感染状態にある患者と家族に対して、身体・心理・社会的の包括的な側面からアセスメントするための知識を学習し、看護介入について検討することができる
- 6) 在宅療養患者における感染予防・管理について、肺炎予防を中心に検討することができる

【学習の進め方】

すべてのテーマに置いて、事前の学習課題を提示する。実際の授業では、事前の学習課題のディスカッションを中心に進めることでアクティブラーニングを推進する

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ） 2	感染看護学概論：感染症看護と高度実践看護師の役割	感染症看護の現状と課題及び高度実践看護師の役割 エビデンスに基づいた実践について	塚本 原理加（特別講師）
3	感染看護学概論：感染症を持つ患者の人権と権利	過去の歴史から感染症を持つ患者の権利について理解を深める 1) 感染症法の変遷 2) 感染症と倫理	塚本 山田
4	感染看護学概論：概念及び理論	1) スティグマ理論を例に、理論について学習し、研究の動向を知る 2) 理論の看護実践での活用について、学生の臨床経験に照らして検討する	塚本 山田
5	感染看護学概論：公衆衛生の考え方	公衆衛生的観点から地域及び医療施設における感染症の発症要因及び流行を理解する 1) 公衆衛生概論 2) 感染症と公衆衛生 3) 疫学概論	塚本 山田
6 ） 7	感染症を持つ患者・家族の理解、治療マネジメントと看護援助：小児・母性	小児と母性の対象者において、感染症を持つ患者・家族の理解、治療マネジメント、そして看護援助を検討する ・HIVを始めとした性感染症と妊娠・出産 ・HBV、HCVと妊娠・出産 ・小児ウイルス感染症	塚本 山田
8 ） 9	感染症を持つ患者・家族の理解、治療マネジメントと看護援助：成人・老人	成人と老人を対象に、感染症を持つ患者・家族の理解、治療マネジメント、そして看護援助を検討する ・HIVを始めとした性感染症 ・HBV、HCV ・MRSAに代表される多剤耐性微生物 ・皮膚感染症	塚本 山田

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<ul style="list-style-type: none"> ・尿路感染症 ・呼吸器感染症 <p style="text-align: right;">など</p>	
10) 12	易感染状態にある患者・家族の理解、治療マネジメントと看護援助	<p>易感染状態にある患者とその家族の理解、治療マネジメント、そして看護援助を検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透析を受けている患者 ・移植を受けた患者 ・がん化学療法を受けている患者 	塚本 山田
13	在宅療養患者における感染予防・管理と評価	在宅療養患者における感染予防・管理のニーズを、最近の研究動向から理解し、資源が限られている中での感染予防・管理について検討する。特に、我が国の死亡原因の上位を占める肺炎予防（誤嚥性肺炎を含む）について検討する	塚本 山田
14) 15	まとめ	学習した内容を鑑みて、学生は自身の臨床経験から1事例を取り上げ、その患者の感染予防・管理における課題を抽出し、プレゼンテーションを行う。その上で、ディスカッションする	塚本 山田

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

筆記試験（20％）、プレゼンテーション（30％）、課題レポート（50％）

【教科書】

随時提示する

【参考書】

随時提示する

【学修の準備】

必要な文献を適宜検索し、熟読すること。事前の学習課題を課すので、講義前に準備しておくこと。